

協会ニュース

一般社団法人広島県精神保健福祉協会

平成27年10月発行

Vol. 36

広島土砂災害から1年

活動を振り返る

広島県看護協会災害支援ナース

奥田 美幸 (看護師)



H26. 8. 20豪雨災害から1年が経ちました。しかし復興状況はまだまだ厳しいとニュースなどで聞きます。また、繰り返される大雨に被災された方々の心の傷は癒えることはないのでしょうか。

私は昨年、災害発生後9日目に広島県看護協会から、避難所である緑井小学校に災害支援ナースとして派遣されました。派遣時、緑井小には15世帯35人の方が避難されていました。私は初めての場所、初めての体験に不安と緊張しかありませんでした。74人の方が亡くなったという現実。しかし、避難所の周辺は日常生活が変わりなく営まれているようでした。まさしく局所的な大災害であることを実感しました。

避難所に着いたのは夕方でした。日中はほとんどの方が片付けに外出されていましたが、夕方になると避難所に戻ってこられます。前任の支援ナースから引き継いだ情報をもとに、一人

ひとりに声をかけ、必要なケアを行いました。昼間の活動の疲れなどからほとんどの方は、21～22時頃には就寝されていました。緑井小避難所ではマットに布団を敷き、個人のスペースを作っておられる状況でプライバシーの確保が困難であると感じました。体育館の中に一ヶ所しかないトイレ、帰宅場所が決まらない等、さまざまなストレスを感じられていることを実感しました。

4日間という短い派遣期間でしたが、印象に残る貴重な体験が多くありました。その中の一つに7歳、4歳、10カ月の3人のお子さんと一緒に家族5人で避難されていたご家族との関わりがありました。お母さんは、表情が硬く疲れきっておられましたが、リハビリチームの理学療法士と子供達が楽しそうに遊んでいる姿を見て、少しずつ表情がほぐれ、子育ての悩みや今後の不安をお話しされることもありました。



時折、強い雨が降り体育館の屋根を叩きつけるとまた崩れるのではないかと「おおー」と不安と恐怖の声をあげられる方が多くいらっしゃいました。消えることのない不安な思いを垣間見たことも印象に残っています。

その後、新聞の特集記事を通じて、避難所で関わらせていただいた方々が元気にがんばって

おられる様子を拝見することができました。被災地では、看護師としての知識・技術は必要ですが、何より感じたことは、人と人とのコミュニケーションの大切さ、被災された方々の思いに寄り添う気持ち、多職種派遣チームとの協力などです。是非、支援活動での貴重な経験を次なる成長につなげていきたいと思っています。

広島県災害派遣精神医療チーム (DPAT)

中島 誠一郎 (看護師)



この度、広島土砂災害においてDPATとして活動させて頂きました。避難所のいくつかを訪問させて頂き、精神的な支援として診察をさせて頂きました。今回の土砂災害は自分が思っていたよりも被害が大きかったことにすごく驚きました。テレビなどで報道はされていたのですが、どこか他人事のように考えていたんだと今では思います。また、私もこういった災害派遣に関しては生まれて初めての活動であり、戸惑いを隠せない状態での活動であったことを思い出します。

実際に活動をさせて頂いて、被災地に着いた時、「こんな大きな被害に合われた方はとても大きな心身の傷を受けておられ、支援を待っているに違いない」と思い、自分の仕事の重要さにプレッシャーを感じていました。しかし、実際に活動をさせて頂いた時は、ケアを必要とする方はあまり多くはなかったのです。もちろん身内の方を亡くされた方、自宅が倒壊し、住居をなくされた方、被害にはあっていないが危険

区域であり、いつ土砂が流れてくるか分からない恐怖に怯えている方など様々な方が避難所におられ、被災者の方のお気持ちは計り知れないと思います。しかし、そんな中でも支援や介入を必要とする方は少なく、内服薬の処方に至った方は数名でした。自分としては信じられないような状況でありましたが、その後、災害派遣について学ばせて頂く機会があり、レジリエンスという言葉を知りました。それは、「極度の不利な状況に直面しても、正常な平衡状態を維持することが出来る能力」のことでした。人間にはレジリエンスがあり、大きなストレスに直面した時であっても正常な喪失体験として受け入れることができると学ぶことが出来ました。

今回の活動においてはきっと支援が必要だ、と言う私の思い込みがあったと思います。それにより、必要としているケアに気付かなかった面もあったのではないかと今は反省をしています。今回のような緊急の場面であってもアセスメントをしっかり行う事、トリアージを十分に行い、ニーズにあった援助が必要であることなど精神科看護の基本が重要なのだと学ぶことが出来ました。

今後もこのような災害が起こる可能性は年々高くなってきているのではないかと思います。もしかしたら、また同じような災害派遣の場面に活動させて頂くことがあるかも知れません。その時には、今回の経験を生かし、よりいっそう被災者の方々の支援が出来たらと思います。

研修会報告

平成26年度広島県児童思春期精神保健事例検討ワークショップ



開催日：平成27年2月28日（土）

講演テーマ：「教室の中の気になる子どもへの対応・

親への対応～愛着障害&発達障害を中心に～」

講師：友田 明美 先生

（福井大学子どものこころの発達研究センター

Age 2 企画 教授）

会場：RCC 文化センター

平成26年度地域社会交流促進研修会



開催日：平成27年3月14日（土）

講演テーマ：「発達障害のある人の支援～就労における課題と対応～」

講師：西村 浩二 先生

（広島県発達障害者支援センター センター長）

会場：広島市安芸区地域福祉センター

平成27年度地域精神保健研修会及びひきこもり支援研修会



開催日：平成27年6月15日（月）

講演テーマ：「軽度発達障害（重ね着症候群）について」

講師：皆川 英明 先生

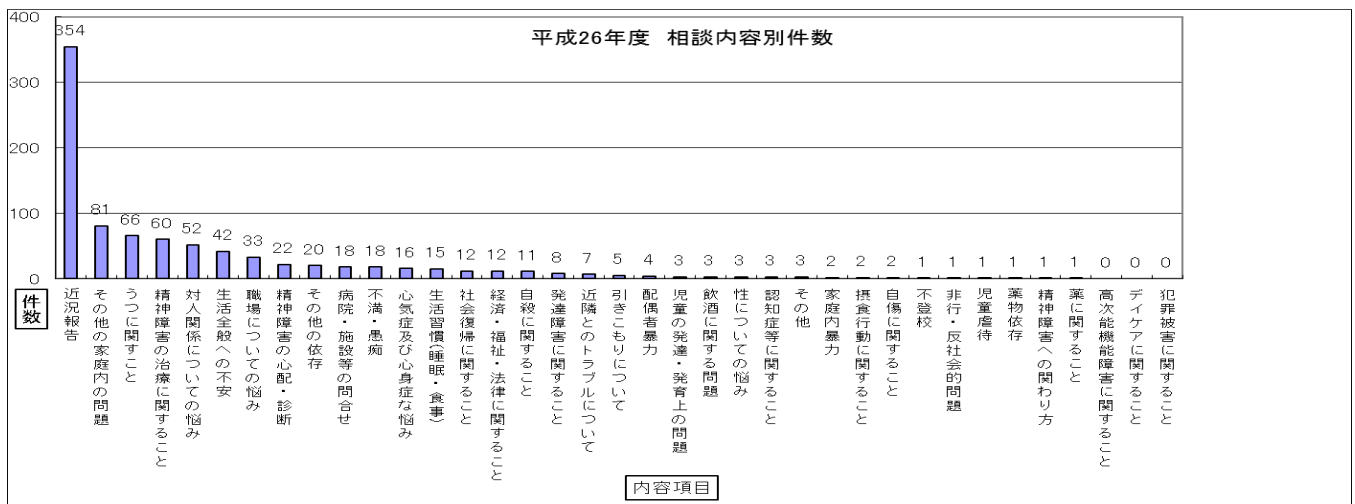
（広島市精神保健福祉センター 所長）

会場：シェラトンホテル広島

こころの電話

当協会は、精神保健相談指導事業として「こころの電話」相談（TEL082-892-9090）を行っております。月・水・金曜日の週3日9：00～12：00、13：00～16：30の時間帯で対応しています。また、第2・第4金曜日には医師相談の体制も整えております。

平成26年度の相談件数は883件で92%がご本人からの相談でした。相談内容については、近況報告が最も多く、次いで家庭内の問題、うつに関することや精神障害の治療に関すること等、相談内容は多岐にわたっていました。



広島ひきこもり相談支援センター

広島ひきこもり相談支援センターでは、県内にお住まいで、概ね18歳以上の方の社会参加や自立のお手伝いをします。相談内容に応じて他の適切な関係機関とつながるように支援します。相談は無料です。面接相談は予約が必要です。平成26年度の相談件数は電話、面接、メール、訪問相談の県全体の合計は4257件でした。

	西部	中部・北部	東部
所在地	広島市西区楠木町1丁目8-11	広島市安芸区中野東4丁目5-25-2F (Seno リバービレッジ内)	三原市小泉町4245
開所時間	月・水・木・金・土 9：00～18：00 (祝日を除く)	月・水・木・金・土 8：45～16：45 (祝日を除く)	火・金 9：00～17：00 (祝日を除く)
電話番号	082-942-3161	082-893-5242	0848-66-0367
E-Mail	soudan@qq.pref.hiroshima.jp		
URL	http://cross-hiroshima.com/index.php/center	http://ww4.enjoy.ne.jp/~h-	http://jinkokai.jp/koizumi/

不眠電話相談

平成 26 年 6 月 1 日不眠電話相談を開設致しました。事業内容につきましては、週 5 日、一日 4 時間開所し、さらに自殺予防対策月間時には特別相談として 1 週間 9 時から 5 時まで開所しました。平成 26 年度の相談件数は 118 件でした。

8 割以上が治療中の方で、不眠以外の相談内容も多く、こころの電話利用者も多くいらっしゃいました。自殺予防月間中は不眠に関する記事を広島県内の情報誌へ掲載したこともあり、他の月に比べ大幅に相談数が増えました。

不眠電話相談事業は広島県からの委託を受けて実施しておりましたが、平成 26 年度を持ちまして事業終了となりました。

実施内容内訳

相談件数

件数
118

相談者性別

男性	女性	合計
63	55	118

年齢

19歳以下	20～64歳	65歳以上	不明	合計
2	89	26	1	118

不眠主訴等

入眠困難	中途覚醒	早期覚醒	熟睡感無	呼吸中断	下肢異常感	睡眠時間常	過眠	睡眠環境	睡眠薬	その他	不明	合計
33	22	10	7	1	0	1	1	0	12	16	15	118

不眠以外の訴え

家族関係	職場の人間関係	希死念慮	拒食・過食	肩こり・頭痛等	疲労蓄積	その他	不明	合計
11	10	1	0	2	1	47	46	118

現在の状況

治療中	休業中	復職希望	復職したて	退職・失業	自殺企図	荷重労働	その他	不明	合計
78	3	1	0	3	0	1	19	13	118

対象続柄

親	子	兄弟姉妹	部下	友人	同僚	上司	配偶者	他社員	孫	本人	合計
1	4	0	0	0	0	0	4	2	0	107	118

対象性別

男性	女性	不明	対象者なし	合計
9	2	0	107	118

対象者年齢

19歳以下	20～64歳	65歳以上	不明	対象者なし	合計
1	9	1	0	107	118

回答・助言

傾聴	精神科受診	心理相談紹介	他医療機関紹介	法令等紹介	生活助言	睡眠助言	その他助言	合計
69	15	0	1	1	3	16	13	118



平成26年度一般社団法人広島県精神保健福祉協会長表彰受賞者

【精神保健活動功労者】 (敬称略)

山中 敏郎	医療法人三永会 京橋心療クリニック 医師
大谷 達夫	医療法人社団二山会 宗近病院 医師
中島 哲夫	中島クリニック 医師
堀本 三千代	医療法人永和会 下永病院 看護師
日山 誠	医療法人永和会 下永病院 精神保健福祉士
塩山 二郎	(株)心理臨床センターしおやま 代表取締役

【精神保健活動優良団体】

医療法人あさだ会 就労継続支援 (B型) 事業所 スペースぶなの森
ふくやま NABA

受賞おめでとうございます



DVD・プロジェクター等無償貸出し

※ 貸し出しは協会員の方に限ります。ぜひこの機会にご入会ください。

「こころの病気～現代社会を生き抜くために～」
 「働きざかりの精神衛生～ストレスをのりこえる～」
 「150万人の訴え～精神障害者・その人権と差別」
 「ある湖畔より ある地域精神保健福祉の歩み」
 「本人・家族のための統合失調症講座」
 「ACT は地域精神医療を変えるか」
 「アルコール依存 回復プロセスと再発予防」
 「もうひとつの人生」(アルコール依存)
 「アルコールの害～未成年者の飲酒～」
 「アルコール依存症」
 「回復への道」(薬物依存)
 「「薬物依存」孤独そして絶望からの脱出」
 「人間やめますか?～魔の覚せい剤～」
 「シンナー～心と身体をむしばむもの～」
 「巣立ち～社会復帰の実践～」
 「大富士方式～社会参加への羽ばたき～」
 「虐待を防ぐために」
 「働くことが困難な若者を社会的に支援するためには」
 「DVD で学ぶ新しい SST」
 「DVD で学ぶ新しい SST・事例集」

「Beck & Beck の認知行動療法ライブセッション」
 「EBP 実践・普及ツールキット」
 「服薬自己管理モジュール」
 「精神障害を持つ人の退院準備プログラム」
 「親と教師のための自閉症の子どもの評価」
 「わかるできる!親と教師のための自閉症の子どもの自立」
 「発達障害の理解と支援～わかり合うって素敵だね!～」
 「老年期をどう生きるか～心の健康～」
 「認知症のケア」
 「てんかん発作と介助」
 「医療職のための包括的暴力防止プログラム」
 「子どものうつ病」
 「自律訓練法のすすめ方」
 「青年期、成人期の発達障害者支援」
 「出所後の道しるべ～薬物を使わない新たな人生に向かって」
 「WRAP—その魂にふれる」
 「生きていくってしんどいねえーひとりじゃないよ～」



平成27年度事業計画概要

継続事業1 精神保健福祉相談事業

ア こころの電話相談委託事業

県民からの精神的な相談を受け、助言や適切な機関の案内をおこなう

イ 内閣府 こころの健康相談統一ダイヤル事業

広島県内からこころの健康相談統一ダイヤルに入電される相談を転送して受け付ける

ウ 広島ひきこもり相談支援センター事業

ひきこもり本人、家族からの電話、来所、訪問などを実施し、適切な関係機関につなげる

継続事業2 精神保健福祉普及啓発研修事業

ア 一般社団法人広島県精神保健福祉協会長表彰

精神保健福祉事業に功績のあった個人、団体に対して表彰をおこなう。表彰式は平成28年6月を予定

イ 協会ニュースの発行

ウ 地域交流支援

精神保健福祉に関連する活動している団体のうち選考により3団体について各¥50,000-を助成する。広島県内の行政機関に推薦を依頼。選考委員により、資金助成の必要性、自主性、社会性などの選考基準から助成団体を決定

エ 地域社会交流促進研修会

精神障害者社会復帰施設等において援助を行っている職種の方を対象に、精神障害を有する人の社会復帰について、シンポジウムもしくは講演会を年に1回開催。平成28年3月を予定

オ 地域精神保健研修会及びひきこもり支援研修会：平成27年6月に実施済み

カ 地域精神保健活動推進事業

精神保健福祉活動を実施している県内の断酒会、精神保健福祉家族連合会、認知症の人と家族の会、各団体に¥50,000-を助成する

その他の事業1

ア 広島県児童思春期精神保健事例検討ワークショップ事業

児童思春期に関連する精神的問題について、講演会や事例検討を年に1回開催。平成28年1月を予定

研修会のご案内

広島県児童思春期精神保健事例検討ワークショップ

テーマ「自分を傷つける行動への理解と対応～子どものメッセージをよみとる」

公開レクチャー講師：松本 俊彦先生

(国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長)

日時：平成28年1月16日(土) 広仁会館(広島市南区霞1丁目2-3) 9:20~17:30 予定

対象：公開レクチャー 児童思春期精神保健の問題に関心のある方

全プログラム 児童思春期精神保健の領域で教育・相談・指導・治療等に関わっている方

受講料：公開レクチャーのみ(午前) 協会員・学生 2,000円 一般 3,000円

全プログラム(全日) 協会員・学生 4,000円 一般 6,000円

詳細につきましては、当協会のホームページに掲載しております。

会費納入について

平成27年度会費をまだ納入いただけていない会員の方は、下記の口座へお振込みください。郵便振込を希望される方は事務局までお問合せください。

口座名義 一般社団法人広島県精神保健福祉協会 会長 山協成人

口座番号 広島銀行 矢野支店 普通口座 3051493

個人会員：1,000円

団体会員：5,000円 7,000円 8,000円

特別会員：18,000円

移動があったら

事務局から会員の皆様にお送りする郵便が、宛先不明で返送されることがあります。

氏名、住所、所属などに移動がありましたら事務局までご連絡ください。

一般社団法人広島県精神保健福祉協会

〒739-0323 広島市安芸区中野東 4-11-13 瀬野川病院内 TEL 082-893-6242 FAX 082-893-6243

URL:<http://ww4.enjoy.ne.jp/~h-mha/> E-mail :h-mha@do4.enjoy.ne.jp

